

木津川市環の拠点創出事業計画書



木津川市マスコットキャラクター
いづみ姫

平成26年1月



木津川市

はじめに

木津川市には、長い歴史の中で先人達が育んできた個性豊かな、素晴らしい地域文化が根付くまちなみが多く残されています。

これらのまちなみを悠久の財産として、未来に引き継ぐためには、現在を生きる私達が、それぞれのまちなみを活用した市民に皆様が楽しむことができる地域振興施策を展開していかなければならないと考えております。

今般、職員提案制度により発案された本事業は、上狛南部地域の活性化や茶問屋街のアピールを目的に、近年のサイクリングブームにも乗じて、「地域との交流の環(わ)」、「健康づくりの環(わ)」、「サイクリングの環(わ)」の3つの環(わ)を結びつける拠点づくりをおこなうものです。

この事業を発展させるためには、市民・関係団体・行政が協働・連携し、それぞれの役割を担いながら、この地域の振興のために協力し合う環(わ)を大切に進めていく必要があると考えております。

さらに、本市でもこのような市民協働による取組みは初めての試みであり、本事業をモデルとして、他の市内の地域の振興へとつながっていくことを期待しております。

おわりに、本計画書の策定にあたり、自転車アンケート調査等で貴重なご意見をお寄せいただいた多くの方をはじめとして、提言書として取りまとめたいただきました環の拠点創出事業準備委員会の委員の皆様や、サポートいただきました京都府職員の皆様に心から感謝申し上げます。

木津川市長 河井 規子



画：山崎 正史氏(環の拠点創出事業準備委員会会長)

目 次

第1章 木津川市の現況と環の拠点創出事業

1-1	木津川市の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-2	貴重な地域資源の活用に向けて・・・・・・・・	2
1-3	環の拠点創出事業コンセプト・・・・・・・・	3

第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容

2-1	拠点施設に関すること・・・・・・・・	4
2-1-1	拠点施設の選定、設置方法・・・・・・・・	4
2-1-2	拠点施設の配置・・・・・・・・	5
2-1-3	拠点施設への導入機能・・・・・・・・	6
2-1-4	拠点施設の整備方針・・・・・・・・	7
2-1-5	拠点施設及び周辺への配慮点・・・・・・・・	7
2-2	事業運営に関すること・・・・・・・・	8
2-2-1	運営の主体・・・・・・・・	8
2-2-2	広報戦略・・・・・・・・	9
2-2-3	設置及び運営財源・・・・・・・・	9
2-3	事業内容に関すること・・・・・・・・	10
2-3-1	期待される取組み内容・・・・・・・・	10

第3章 事業の将来性

3-1	事業の実現に向けて・・・・・・・・	11
3-2	観光ルートなどの整備による集客に向けて・・・・・・・・	11
3-3	事業の将来に向けて・・・・・・・・	12
3-4	歴史ある「まちなみ」の形成に向けて・・・・・・・・	12
【参照資料】	市内の観光名所・観光スポットなど・・・・・・・・	13
	ハブ機能を有する拠点として（市内版）・・・・・・・・	14
	ハブ機能を有する拠点として（市外・広域版）・・・・	15

【参考資料】

資料1	木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例・・・・・・・・	16
資料2	木津川市環の拠点創出事業準備委員会委員名簿・・・・・・・・	18
資料3	木津川市環の拠点創出事業準備委員会検討経過・・・・・・・・	19
資料4	自転車利用者アンケートの実施結果・・・・・・・・	21



第1章 木津川市の現況と環の拠点創出事業

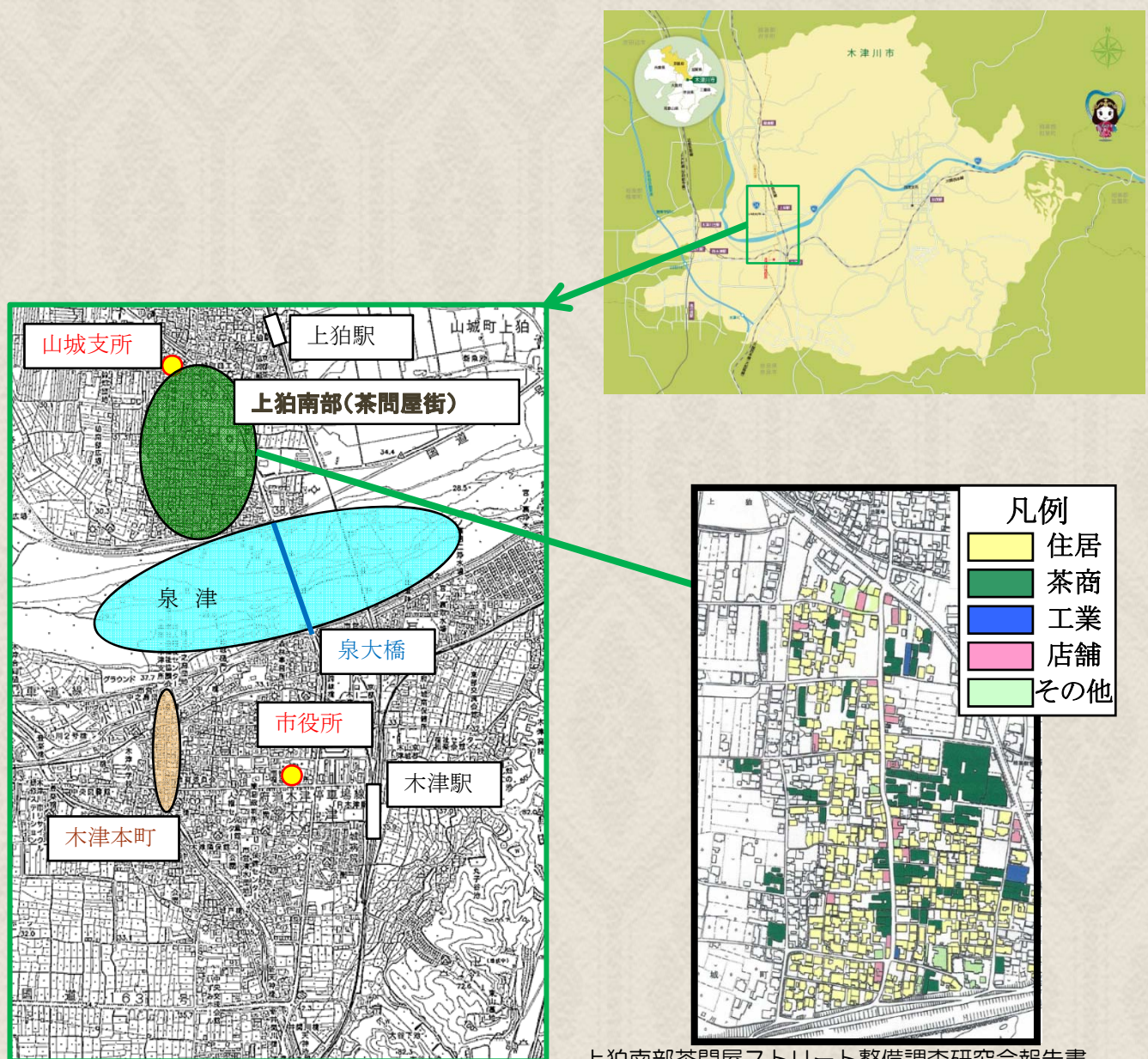


1-1 木津川市の歴史

木津川市は、古都京都と奈良を結ぶ主要な陸路である奈良街道と、大阪・神戸方面への重要な水運であった木津川が交差する位置にあり、古墳時代から流通が盛んで商業が栄えた地域である。泉大橋下流には「泉津」という港が置かれ、平城京造営のための木材を荷揚げするなど、歴史的にも重要な港として栄えていた。

そのため、港の周辺地域も早くから繁栄し、木津川左岸には木津本町地域、右岸には上粕南部地域、そして、木津川上流には加茂船屋地域と歴史的な景観が残された町並みが、現在も残されている。特に、上粕南部地域では、近世中頃から、このような流通網を活かして、綿花を中心とした商業作物の貿易が盛んに営まれた。

明治時代に入ると、アメリカやイギリスなど海外において、日本茶の人気の高まったことから、綿花と兼業して茶商を営む商人が増え、木津川の水運によって、神戸から海外へも日本茶が輸出されるようになった。その後、多様な繊維の登場により綿花の取引は減少していくが、茶商専門の商人が増え、現在でも30数軒の茶問屋が事業を営まれている。



【上粕茶問屋街】

上粕南部茶問屋ストリート整備調査研究会報告書
(平成15年3月)

上粕南部地域 建築用途分類分布図

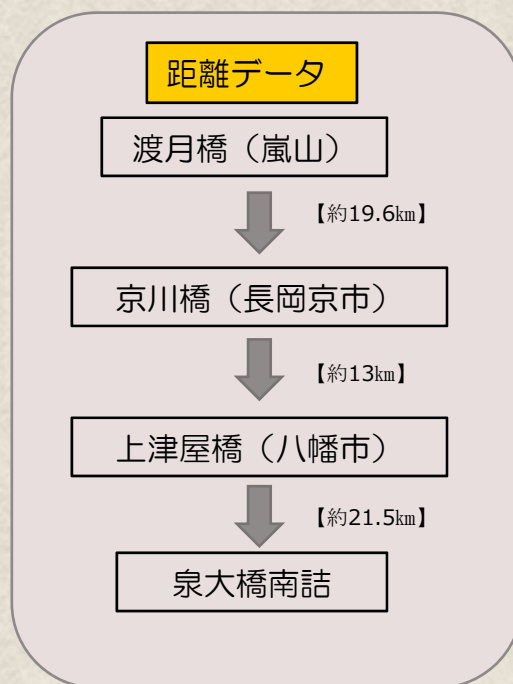
1-2 貴重な地域資源の活用に向けて

前述のとおり上狛南部地域は、明治時代から茶商業が栄え、現在も30数軒の茶問屋が立地している。加えて、山城支所や木津川市山城町商工会等といった公共的施設が集積している。

しかし、茶問屋に代表されるような保全度が高い伝統的な木造建築により歴史的な景観を創り出している一方で、この歴史的な景観の調和が課題となっており、統一感のある景観を保全する取り組みをおこなうことが望まれている。

また、少子高齢化や自動車社会の進展により、食料品をはじめとする生活必需品等を販売する商店も少なくなるなど、地域振興のあり方が課題となっている。

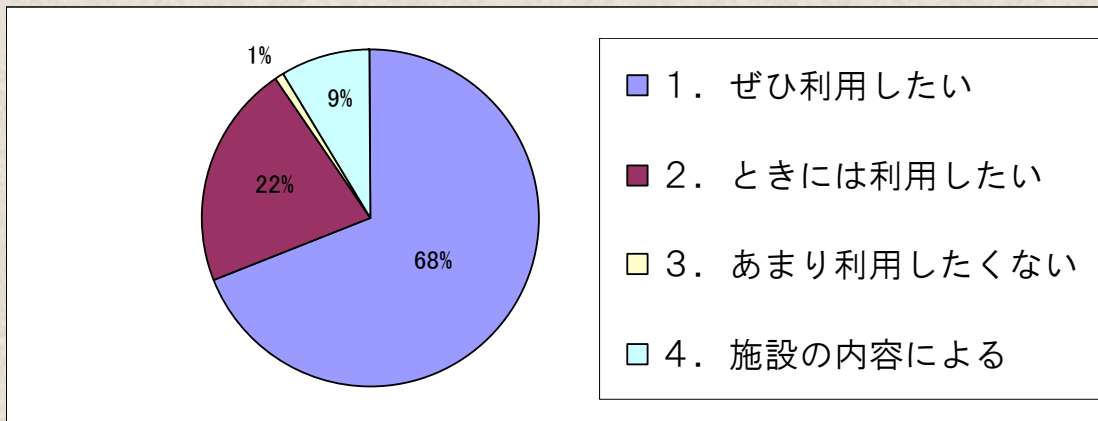
本地域については、このような課題の解決に向け、近年のサイクリングブーム期において、府道京都八幡木津自転車道線の起終点に近く、サイクリング愛好家の利用も多く見込まれることから、茶問屋街などの地域資源を活用した観光と、地域住民とサイクリスト等の観光客との交流を目的とした本地域ならではの新たな事業を創出するために検討した。



自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. 木津川市内の自転車道周辺に休憩所があれば利用したいですか。



1-3 環の拠点創出事業コンセプト

上粕南部地域の課題の解決に向けた新たな事業として、「地域との交流の環(わ)」、「健康づくりの環(わ)」、「サイクリングの環(わ)」の3つの環を繋げ、上粕南部地域の茶問屋街において、地域特有の資源とサイクリストなどのニーズを融合させた環の拠点創出事業を検討した。

なお、本事業は、広域のサイクリングコースの拠点としても活用できることから、府内の市町村や、奈良県や滋賀県等の近隣自治体とも連携し、サイクリングルートを設定できる等の期待ができる。

環の拠点創出事業のコンセプト



地域との交流の環(わ)

- ①「本物のお茶」の発信
- ②地域特産物の提供
- ③市内の観光ルート拠点
- ④市外との広域的な観光連携



健康づくりの環(わ)

- ①地域住民の楽しみ
- ②高齢者の交流
- ③各種サークルの紹介
- ④老人クラブ等の活動



サイクリングの環(わ)

- ①サイクリストの誘客
- ②サイクリストの観光
- ③休憩所などの設置
- ④サイクリングの拠点



地域振興・サイクリスト等の誘客に向けて

- ①茶問屋街において、既存の地域資源とニーズの融合を図り、サイクリストにターゲットを絞った拠点を整備
- ②広域のサイクリングルートの拠点として活用
- ③サイクリスト等を誘客するための拠点として活用



第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容



2-1 拠点施設に関すること

2-1-1 拠点施設の選定、設置方法

本事業の検討にあたり、自転車道の起終点である泉大橋南詰から近く、また上粕南部地域の茶問屋街の玄関口となる拠点施設を検討した。

施設名	京都やましろ農業協同組合倉庫
地番	木津川市山城町上粕北的場15番地
面積	約165㎡
所有者	京都やましろ農業協同組合
使用者	木津川市山城町商工会
施設整備者	木津川市

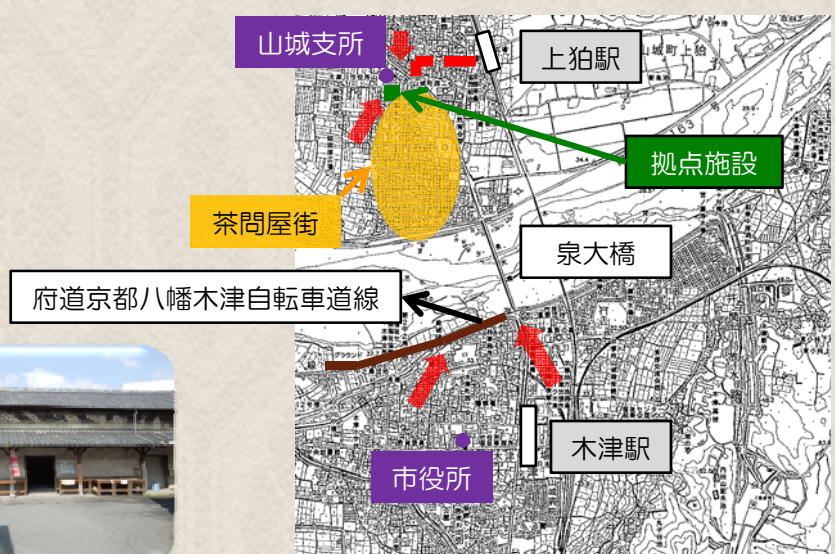
施設の評価

①立地位置としての評価

- ・国道24号にほぼ隣接しており、JR上粕駅からも約400mの位置に立地していることから、**観光誘客面からも利便性が高く、茶問屋街の玄関口として活用**できる。
- ・上粕地域の中心であり、現在も山城支所庁舎等の公共的施設が隣接しており、複合的な施設の利用が可能である。
- ・近年の健康やエコ志向に基づくサイクリングブームにより、自転車愛好家の利用が増加している**府道京都八幡木津自転車道の起終点である泉大橋から、北へ約1,300mの近距離に立地**している。
- ・施設周辺には、自転車愛好家からもニーズの高い、コンビニエンスストア及び飲食店が既に立地しており、周辺には自動販売機等も多く設置されている。

②建築物としての評価

- ・**茶問屋街の趣旨に適合した歴史的な伝統的木造建築**である。
- ・建築基準法上も現在の雰囲気を残した改修等が可能である。



【拠点施設位置】

2-1-2 拠点施設の配置

拠点施設の配置等については、次のとおり整備イメージを検討した。

施設内部イメージ

施設の内部は、現存活用を基本として、2区画（それぞれ約45㎡程度の正方形【6.7m×6.7m】）を地元地域向け機能とサイクリスト向け機能として設置する。

施設周辺全体イメージ

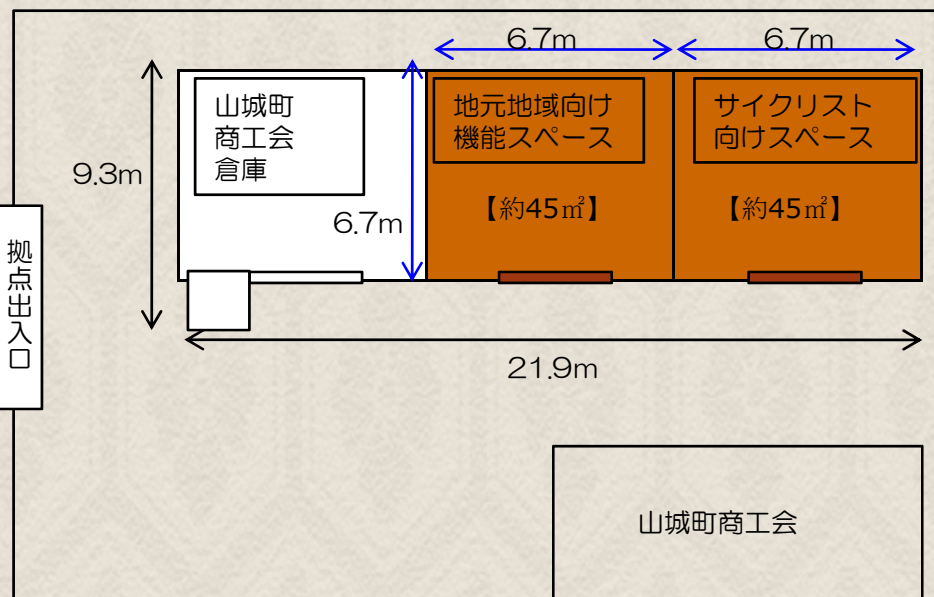
周辺施設に配慮しながら訪問者等が、わかりやすく移動できるような整備を行う。



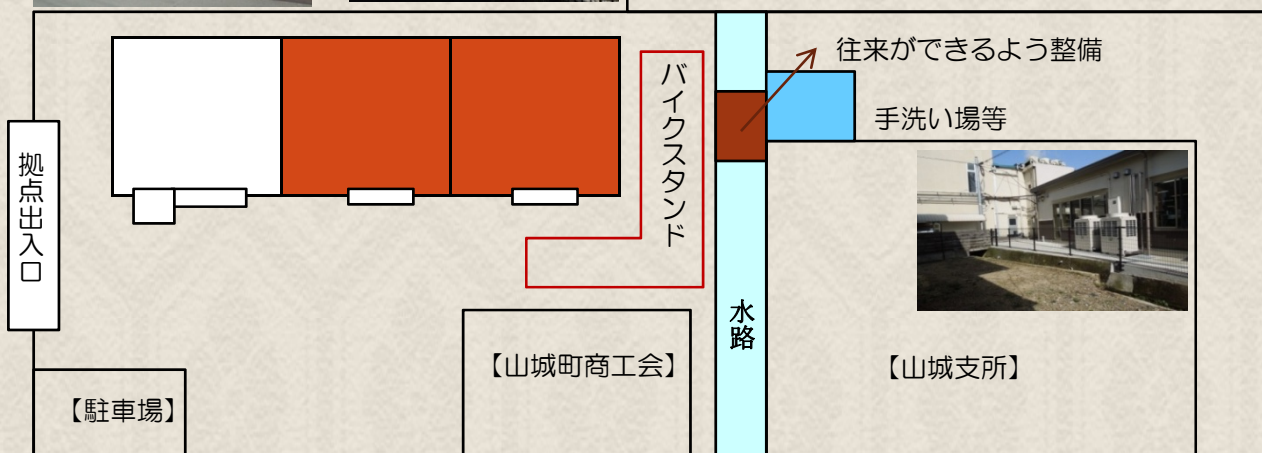
【全景】



【内部】



【施設内部の配置イメージ】



【施設全体のイメージ】

2-1-3 拠点施設への導入機能

導入機能については、地域交流・健康づくりの環に必要な機能を、またサイクリングの環については、自転車アンケートの調査結果を基に検討した。

基礎的機能

トイレ、駐車場、自動販売機（飲物）等

地域との交流向け機能

会話スペース（ベンチ）等

地域振興向け機能（地元PRコーナー）

地元野菜直売所、地元特産品販売所（展示含む）、観光案内マップ・看板（拠点施設周辺の歴史文化など）等

サイクリスト向け機能（サイクリスト支援コーナー）

バイクスタンド、スリッパ（サイクリストシューズ履き換え用）、水道設備（洗面及び手洗い・自転車洗車用）、サイクリスト用マップ、サイクリスト伝言掲示板、有料駐車場、サイクルピット、コインシャワー、レンタサイクル等



【自動販売機】



【ベンチ】



【バイクスタンド】

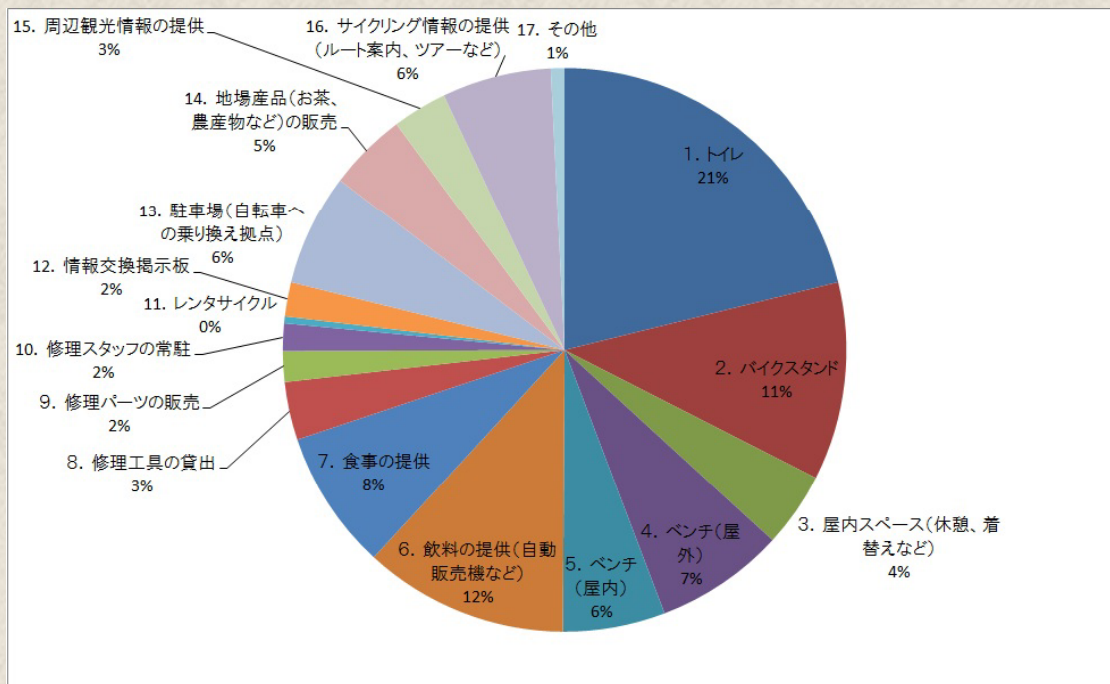


【農産物販売所】

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. 拠点施設の機能として、何が特に必要と思いますか。



2-1-4 拠点施設の整備方針

不特定多数を集客する公共施設として、建築基準法やバリアフリー法等を考慮し、安全な施設としての整備を図るものとする。

詳細

本施設整備については、建築基準法の建築確認申請の対象ではないが、不特定多数の利用者が想定されることから、建築基準法、バリアフリー法を順守した上で、整備を進めるべきである。

なお、現状においては、以下の改築等の検討が必要である。

- ・ 耐震調査結果に基づく改築
- ・ 自然採光窓の設置（床面積1/20以上の窓）
- ・ 排煙窓の設置（床面積1/50以上の排煙窓）
- ・ 外壁・軒裏の防火構造対策



【排煙窓イメージ】

2-1-5 拠点施設及び周辺への配慮点

拠点施設への安全な誘導と交通事故防止対策

- ・ 泉大橋（京都八幡木津自転車道線終点）からのサイン等による安全誘導
- ・ 自転車による交通事故防止対策（道路整備・注意喚起）

詳細

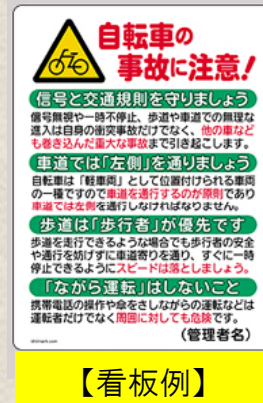
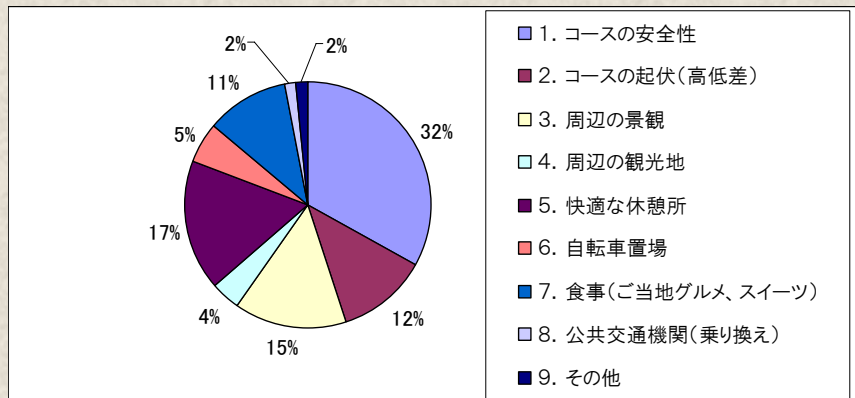
自転車アンケートの調査結果のとおり、サイクリストの立場から拠点施設への自転車による移動アクセスが安全、かつ、容易でなければ、多くの方の訪問を期待することができない。泉大橋から拠点施設まで、一般道路（通学路を含む日常生活道路）を通行することとなることから、自転車による交通事故防止対策に万全を期すためにも、**管轄の木津警察署や道路管理者から交通に関する助言等を得ておく必要がある。**

また、周辺にはサイクリストがゆっくり走行いただけるような啓発看板を設置するほか、拠点施設やショップの案内看板などを設置する必要がある。

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. サイクリングコースを考える上で重視していることは何ですか。



2-2 事業運営に関すること

2-2-1 運営の主体

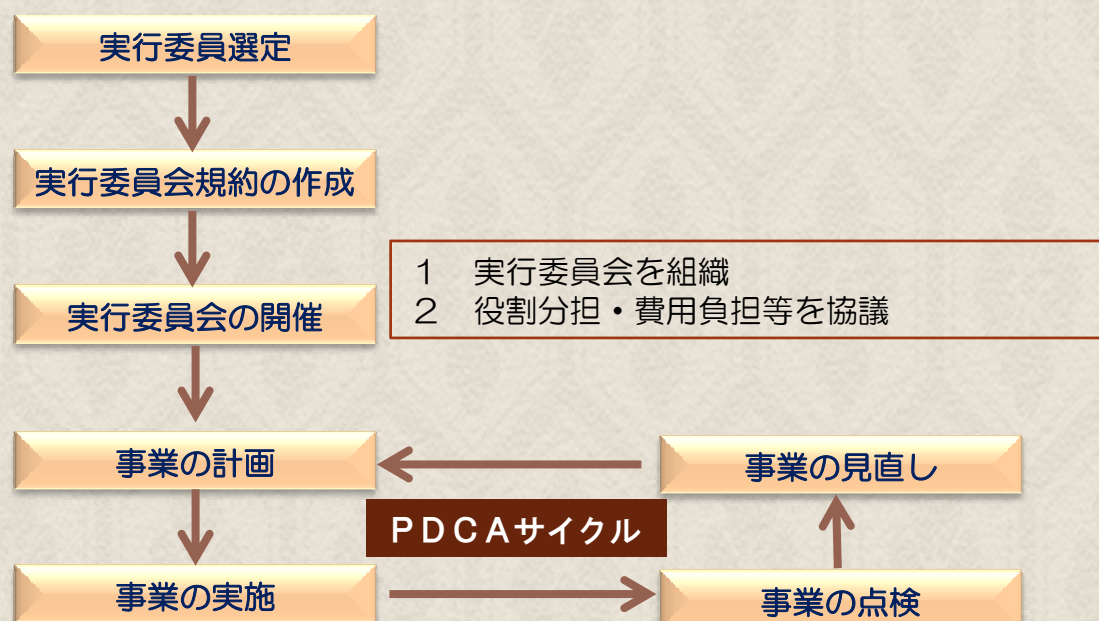
実行委員会方式とし、市は、各種団体へ設置及び参画の協力依頼に努める。地域団体及び公共的団体等が、新しい一つの組織（【仮称】環の拠点実行委員会）を立ち上げ、事業を展開する。

実行委員会方式のメリット

運営主体	メリット
実行委員会	①企画段階から、各主体の意見を議論し、事業を実施することで、適切なパートナーシップを築くことができる。 ②各参加団体に協力いただくことで、それぞれの団体が持っている情報やノウハウ、人的パワーなどを活用することができ、市民ニーズに即した企画や、より規模の大きなイベントの実施が可能となり、幅広い参加が期待できる。

実行委員会方式の流れ

事業の実施状況を確認し、計画(P l a n)→実施(D o)→点検(C h e c k)→見直し(A c t)のプロセスを繰り返し行う、PDCAサイクルにより、事業の達成状況などを管理します。



2-2-2 広報戦略

茶間屋街等を題材として、あらゆる媒体を活用しながら丁寧に周知していくこととする。

①広報誌及び案内サイン等による周知

観光関連パンフレット、市広報誌、市及び木津川市観光協会ホームページ、報道機関や自転車書籍への情報提供及び当施設イベントチラシ、案内サイン等

②クチコミ等による周知

各種団体からのクチコミ発信、サイクリストの伝言板等の活用、地元地域や各種団体への直接出前説明等

③電子媒体を活用した周知

事業運営主体のホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッター等



【市広報誌】



【観光パンフレット】



【市ホームページ】



【木津川市観光協会
ホームページ】



【ツイッター】



【フェイスブック】

2-2-3 設置及び運営財源

設置及び運営財源

当該施設の改築費用や案内サイン等の初期整備財源、及び本事業が軌道に乗るまでの事業運営財源は、木津川市が市民協働事業としての運営財源等が対象となるような国及び府の補助金等を活用して確保するものとする。

また、市は開設後の利便性向上や改善に向けた施設整備についても、補助金等を活用できるように対応するなど、補助金制度の研究等について中心的な役割を担っていくことが望ましい。

2-3 事業内容に関すること

2-3-1 期待される取組み内容

本事業は地元地域活性化のため、及びサイクリストなどの誘客のための双方からの視点による取組みをおこなう必要がある。

また、地元地域活性化のために、地域の住民が交流を深め、拠点施設を盛り上げるための取組みをおこない、サイクリストなどを迎えることとして、市民がおもてなしをおこなうことが期待される。

このことから、本事業に関係する団体の会員・組合員、地元住民などで、ワークショップをおこない、次のとおり取組み内容を取りまとめた。

	期待される取組み内容等
全般的な拠点施設に関すること	拠点施設のPR活動 各団体のイベント会場としての活用
地元地域に関すること	各種サークルの紹介と交流活動 老人クラブ等の地域活動
農業に関すること	地元野菜・農産物の朝市販売 規格外農産物等の低価格販売 ぶどう生産組合の活用
商工に関すること	地域特産品(※)の開発・販売・展示 弁当(地域特産品使用)の販売 拠点カフェの設置
観光に関すること	観光モデルコースの検討 ・季節毎のみどころ案内 ・文化財の紹介 ・山城名所巡り 観光マップの作成 スタンプラリーの実施 木津川市マスコットキャラクター(いづみ姫)の活用
茶業に関すること	お茶の淹れ方講座の実施 お茶の販売・提供サービス 茶問屋・お茶の歴史等の紙芝居
サイクリングに関すること	サイクリスト講習会の実施 ツーリングイベント等の企画 修理店舗の案内 サイクリングコースの新設・案内 サイクリングマナーの案内・発信 電動アシスト付き自転車レンタル

※地域特産品：タケノコ焼酎、タケノコバーガー、タケノコまんじゅう等



第3章 事業の将来性



3-1 事業の実現に向けて

環の拠点創出事業の実現に向けて、サイクリストや利用客が楽しむことができる施設という、所期の目的が反映できるよう、財源確保も含め、時代のニーズ等に基づき、木津川市をはじめとする地元地域団体が、弾力性を持って、地元地域のために手を取り合って進めていく必要がある。

また一方、運営面では、その継続性を確保するため、運営参加者が楽しみながら、利便性のあるシステムづくりが大切である。

3-2 観光ルートなどの整備による集客に向けて

市内には、茶問屋街と同様に、歴史的なまちなみが残る木津本町地区や加茂船屋地区がある。また、拠点施設周辺や旧山城町北部地域の椿井大塚山古墳や蟹満寺などの観光名所に加えて、浄瑠璃寺や岩船寺など多くの国宝・重要文化財を所有する神社仏閣や石仏の道のある当尾地区、恭仁宮跡や海住山寺の歴史的資源を有する瓶原地区などの観光エリアが数多くあり、これらのエリアと、拠点施設とを結ぶサイクリングコースや散策ルートを設定し、マップの作成を進めていく必要がある。

ただし、利用者の増加とともに、観光スポットの整備の検討及びサイクリングコースの要所には、トイレやバイクスタンドなどの整備の検討が必要になるものとする。

また、市外にも多くのサイクリングコースなどがあり、本拠点にハブ（中継）機能を持たせ、将来的には、上狛南部地域を中心としたサイクリングコースや散策コースができることを期待する。（13・14・15頁 参照資料）

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

問. よく行かれる目的地はどこですか。

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

2人以上の回答があった目的地		1人から回答のあった目的地
嵐山	15人	けいはんなホテル（精華町） けいはんな記念公園（精華町） 当尾（木津川市）、 三国越林道（和束町～伊賀市）、 大正池（井手町）、 くろんど池（交野市・生駒市） 京都市、京都大原、大和郡山市、吉野町、 枚方市、門真市、淀川、藤井寺市、金剛山 天野原、和歌山県 （地名・施設名以外） パン屋、直売所、歴史跡巡り 日帰り圏内どこでも、自然との触れ合い
上津屋橋（流れ橋）	10人	
木津 ※木津川市(1)含む	8人	
八幡市 ※御幸橋(2)含む	4人	
奈良市	4人	
信楽	4人	
和束町	3人	
京田辺市 ※京田辺市運動公園(1)含む	2人	
明日香村	2人	
滋賀県 ※琵琶湖(1)含む	2人	
大阪市	2人	

3-3 事業の将来に向けて

地域活性化・市内外へのアピールとして

本事業を機会とし、それぞれの団体が新しいネットワークづくりをおこない、他の地域振興事業のモデルとなるように充実を図る。

また、本事業が市内の各地域においても展開されることを期待する。

3-4 歴史ある「まちなみ」の形成に向けて

地域住民の力で景観整備につなげる

市内には上粕南部地域のように、伝統的木造建築や歴史的資産等により、地域特有の景観を創り出している地域が市内に点在する。しかし、どの地域においても地域特有のまちなみなどの景観の調和が課題となっている。

良いまちなみを保全し活かしていくためには、地域住民がその価値を見直すことにより、今あるものを残しながら、特色ある景観が形成されていくことを期待する。



【上粕南部のまちなみ】



【旧奈良街道のまちなみ(木津本町)】



【加茂船屋のまちなみ】

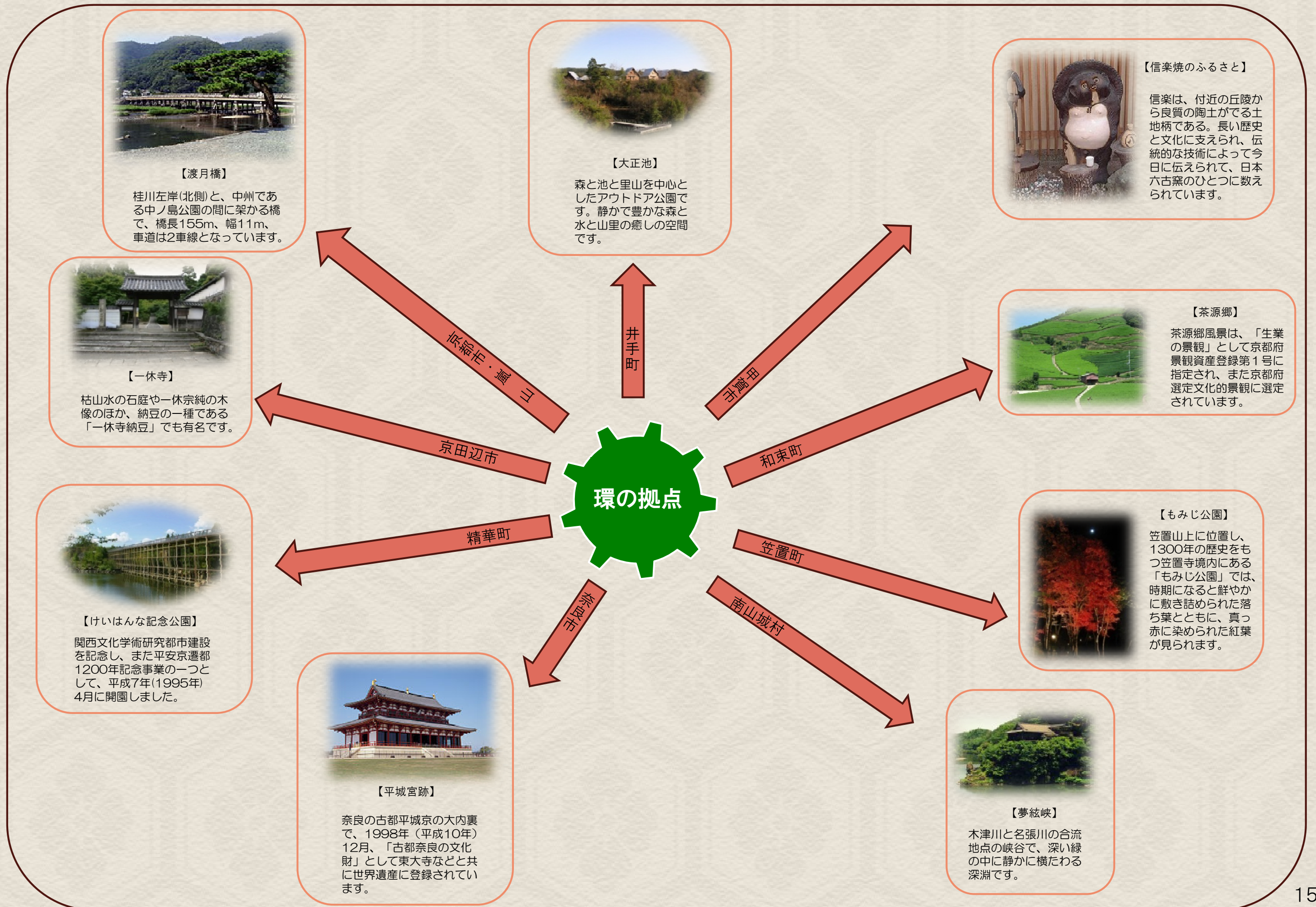
市内の観光名所・観光スポットなど



ハブ機能を有する拠点として（市内版）



ハブ機能を有する拠点として（市外・広域版）



木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例

木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例

平成 24 年 12 月 26 日条例第 35 号

(設置及び目的)

第 1 条 木津川市山城町上狛地域が築いてきた茶文化による観光の推進と地域間交流を促進するための環の拠点創出事業準備委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 環の拠点創出事業に関する調査及び審議を行うこと。
- (2) 前号の環の拠点創出事業に関して、市長に提言すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 12 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者から市長が委嘱する。

- (1) 地域住民の代表者
- (2) 識見を有する者
- (3) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、平成 26 年 3 月 31 日までとする。

(会長及び副会長)

第 5 条 委員会に会長及び副会長 1 人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、委員会を代表し、その会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会は、会長が招集し、会長が議長となる。ただし、最初にかれる会議については、本条の規定にかかわらず市長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第 7 条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(公開)

第 8 条 委員会の会議は、公開とする。ただし、会長が必要と認めるときは、

公開しないことができる。

2 委員会の会議の日時及び場所等については、あらかじめ広く周知することに努めるものとする。

3 委員会の会議の資料及び結果は、その開催後、速やかな公表に努めるものとする。ただし、第1項ただし書の規定に基づき会議を公開しない場合は、その資料及び結果を公開しないこととする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画担当課において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、委員会の設置及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の特例)

2 第5条第2項の規定にかかわらず、会長が選出されるまでの間、第9条の庶務を処理する担当課長がその職務を代理する。

(失効)

3 この条例は、平成26年3月31日限り、その効力を失う。

木津川市環の拠点創出事業準備委員会 名簿

(敬称略)

区分	氏名	構成団体
第 1 号委員	福井 保知	上狛南部地域（地域長）
第 2 号委員	(会 長) 山崎 正史	立命館大学理工学部（教授）
	(副会長) 岡井 有佳	立命館大学理工学部（准教授）
第 3 号委員	川邊 隆司	山城茶業組合（組合長）
	坂本 利正	木津川市観光協会（理事長）
	杉野 耕造	自転車関連産業
	辻 忠	山城町ふるさと案内人の会（会長）
	出栗 伸幸	サイクリング愛好家
	花田 啓	京都やましろ農業協同組合（山城支店長）
	藤原 久博	木津川市山城町商工会（会長）
	吉村 由美子	サイクリング愛好家

【委員区分】

第 1 号：地元地域の代表者

第 2 号：学識経験者

第 3 号：市長が認める者

(商工団体、茶業団体、観光団体、自転車産業、サイクリスト)

【オブザーバー】

京都府山城広域振興局企画振興室

室長 辻村 徳夫（平成 25 年 2 月 14 日～
平成 25 年 3 月 31 日）

室長 湯瀬 敏之（平成 25 年 4 月 1 日～）

京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄

木津川市環の拠点創出事業準備委員会検討経過

■第1回木津川市環の拠点創出事業準備委員会（平成25年2月14日）

- ・委員委嘱
- ・会長及び副会長の選出
- ・議事
 - （報告事項）
 - ・委員会の役割及び運営
 - （協議事項）
 - ・環の拠点創出事業の概要
 - ・自転車利用者アンケート調査
- ・現地視察

■第2回木津川市環の拠点創出事業準備委員会（平成25年3月27日）

- ・議事
 - （報告事項）
 - ・第1回準備委員会現地視察結果
 - ・自転車利用者アンケート結果
 - （協議事項）
 - ・施設選定について
 - ・設置方法について
 - ・導入機能について

■第3回木津川市環の拠点創出事業準備委員会（平成25年5月9日）

- ・議事
 - （協議事項）
 - ・環の拠点創出事業に関する提言書骨子（案）について
 - ①導入機能について
 - ②運営主体について
 - ③運営手法について
 - ④広報戦略について
 - ⑤設置財源について

■木津川市環の拠点創出事業準備委員会にかかるワークショップ

（平成25年6月20日）

- ・協議内容
 - 環の拠点創出事業内容について

■第4回木津川市環の拠点創出事業準備委員会（平成25年8月23日）

・議事

（協議事項）

・環の拠点創出事業に関する提言書（中間案）について

①第1章 木津川市の現況と環の拠点創出事業

②第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容

③第3章 事業の将来性

■第5回木津川市環の拠点創出事業準備委員会（平成25年11月21日）

・議事

（協議事項）

・木津川市環の拠点創出事業に関する提言書について

パブリックコメントに対する市の考えについて

・提言書の提出について

自転車利用者アンケートの実施結果

■アンケートの目的

自転車利用者のニーズを調査し、拠点施設の導入機能や広報戦略の検討資料とする。

■配布方法等について

アンケートは、自転車道を走行している方と木津川サイクリング倶楽部が行った初心者講習会の参加者を対象として実施した。

なお、自転車道を走行している方には自転車道配布用を、また初心者講習会の方には団体等配布用を用いた。

	自転車道利用者	初心者講習会（木津川サイクリング倶楽部）
実施日	平成25年3月9日（土）	平成25年2月24日（日）
実施場所	府道京都八幡木津自転車道線 上津屋橋（流れ橋）休憩所	アスパアやましろ
配布数・回収数	100人	28人
配布方法	休憩している方に配布・回収	講習会参加者に配布・回収

■アンケートの概要

アンケートの設問は、以下の内容とした。

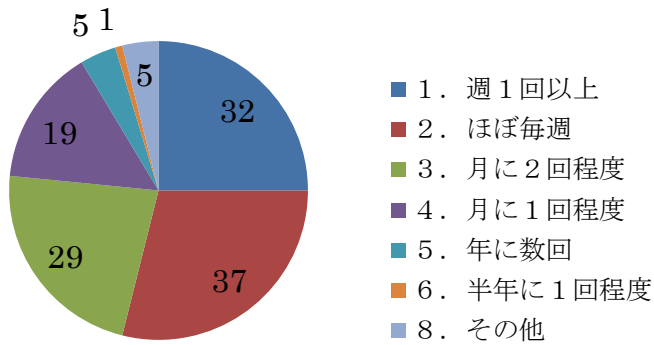
項 目 【 】はアンケートの問番号	理由・活用方法
活動頻度 （サイクリングに出かける頻度【1】、自転車道の利用頻度【2】）	需要調査 （来場者予測）
行程 （目的地【3】、休憩地【4】、利用施設【5・6】）	範囲設定 （広報範囲、モデル施設）
利用意向 （施設の必要性【7】、位置の妥当性【8】）	需要調査 （他地域への応用）
導入機能 （施設【9】、設備【9】、サービス【10】）	導入機能選定 （施設整備の優先順位）
サイクリングコースの設定要素 （コース特性【11】、付加価値【11】）	利用促進策 （モデルコース設定）
情報取得ツール （情報取得方法【12】）	広報戦略 （広報媒体の優先順位）
消費額 （1行程の消費額【13】）	観光消費額調査 （収支計算）
属性（フェイスシート） （性別【14】、年齢【15】、利用歴【16】、自転車の種類【17】）	顧客特性 （クロス集計）

アンケート集計結果

※グラフの数値は回答数

問 1-1 どれくらいの頻度でサイクリングに出かけていますか。

- ・約3割の方が、ほぼ毎週サイクリングをおこなっており、週1回以上・月に2回程度を合わせると、約8割を占める。



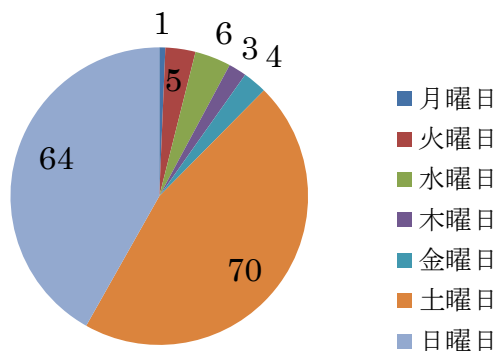
選択肢	回答数	割合
1. 週1回以上	32	25%
2. ほぼ毎週	37	29%
3. 月に2回程度	29	23%
4. 月に1回程度	19	15%
5. 年に数回	5	4%
6. 半年に1回程度	1	1%
7. 年に1回程度	0	0%
8. その他	5	4%
合計	128	100%

「8. その他」の記載内容

- ・ ほぼ毎日
- ・ 晴日は毎日
- ・ 毎日

問 1-2 よく出かけられる曜日はいつですか。(複数回答)

- ・土曜日・日曜日で約9割を占める。

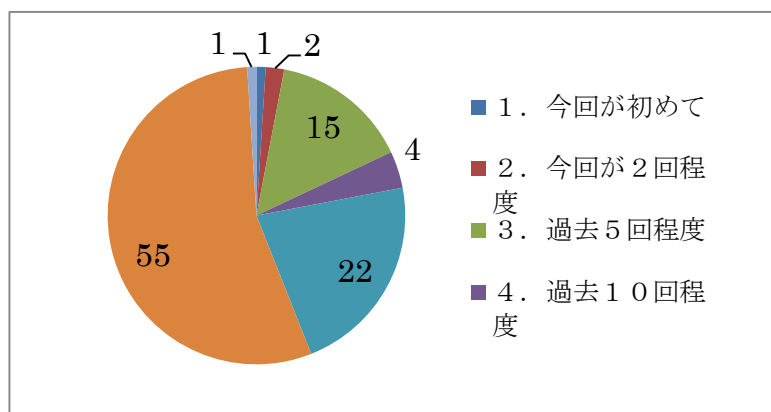


選択肢	回答数	割合
月曜日	1	1%
火曜日	5	3%
水曜日	6	4%
木曜日	3	2%
金曜日	4	3%
土曜日	70	46%
日曜日	64	42%
合計	153	100%

問2 府道京都八幡木津自転車道線はよく利用しますか。

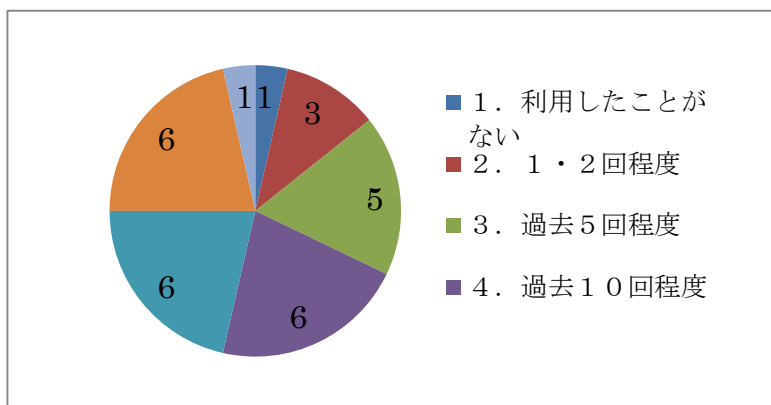
- ・自転車道配布用では、とてもよく利用するが最も多く5割を超えた。
- ・団体用配布用でも、利用したことがない方は1人であった。
- ・全体でもほとんどの方が利用した経験を持ち、過去5回程度利用している方が約9割であった。

自転車道配布用



選択肢	回答数	割合
1. 今回が初めて	1	1%
2. 今回が2回程度	2	2%
3. 過去5回程度	15	15%
4. 過去10回程度	4	4%
5. 10回以上	22	22%
6. とてもよく利用する	55	55%
未回答	1	1%
合計	100	100%

団体等配布用



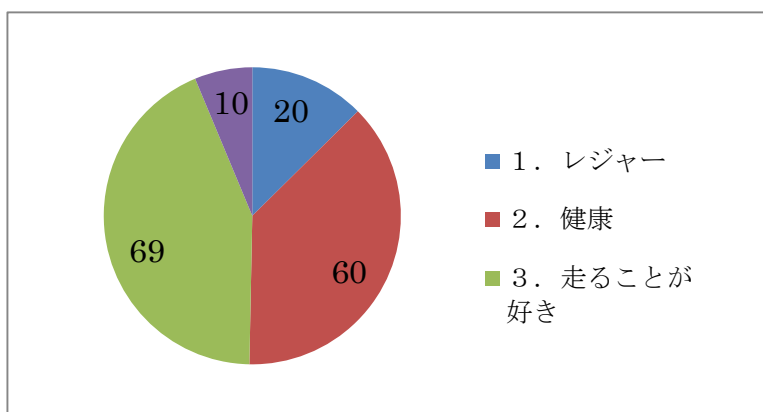
選択肢	回答数	割合
1. 利用したことがない	1	4%
2. 1・2回程度	3	11%
3. 過去5回程度	5	18%
4. 過去10回程度	6	21%
5. 10回以上	6	21%
6. とてもよく利用する	6	21%
7. 知らなかった	0	0%
未回答	1	4%
合計	28	100%

「6. とてもよく利用する」と答えた61人のひと月の利用頻度

1回： 4人	2回： 12人	3回： 4人
4回： 12人	5回： 2人	6回： 3人
7回： 3人	10回： 2人	20回： 5人
30回： 1人		

問3-1 自転車に乗る目的は何ですか。(複数回答)

・走ることが好きな方及び健康を目的とされている方がともに約4割であった。



選択肢	回答数	割合
1. レジャー	20	13%
2. 健康	60	38%
3. 走ることが好き	69	43%
4. その他	10	6%
合計	159	100%

「8. その他」の記載内容

・いろいろ ・トレーニング ・ひまつぶし ・レースの練習 ・練習

問3-2 よく行かれる目的地はどこですか。(複数回答)

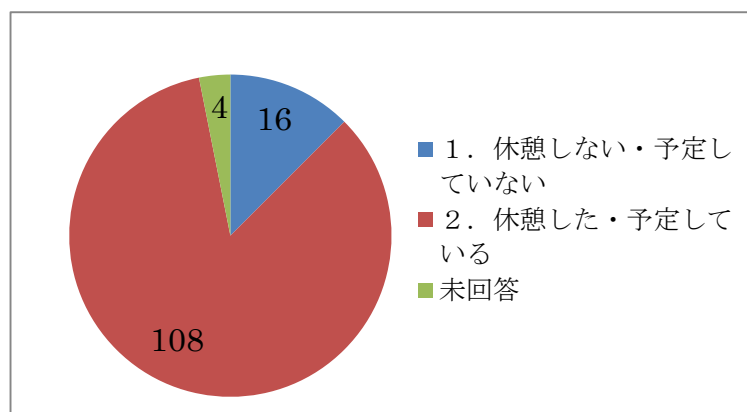
- ・府道京都八幡木津自転車道線でアンケートを行ったこともあり、嵐山・上津屋橋が約3割を占めた。
- ・木津を目的地とした方は約1割であった。

2人以上の回答があった目的地		1人から回答のあった目的地
嵐山	15人	けいはんなホテル（精華町） けいはんな記念公園（精華町） 当尾（木津川市）、三国超林道（和束町～伊賀市） 大正池（井手町）くろんど池（交野市・生駒市） 京都市、京都大原、大和郡山市、吉野町、 枚方市、門真市、淀川、藤井寺市、金剛山、 天野原、和歌山県 （地名・施設名以外） パン屋、直売所、歴史跡巡り 日帰り圏内どこでも、自然との触れ合い
上津屋橋（流れ橋）	10人	
木津 ※木津川市(1)含む	8人	
八幡市 ※御幸橋(2)含む	4人	
奈良市	4人	
信楽	4人	
和束町	3人	
京田辺市 ※京田辺市運動公園(1)含む	2人	
明日香村	2人	
滋賀県 ※琵琶湖(1)含む	2人	
大阪市	2人	

計78件

問4 休憩はどうされますか。(複数回答)

- ・約8割は途中で休憩をしたり休憩の予定をしている。
- ・府道京都八幡木津自転車道線でアンケートを行ったこともあり、上津屋橋と答えた方が多かったが、次いでコンビニであった。



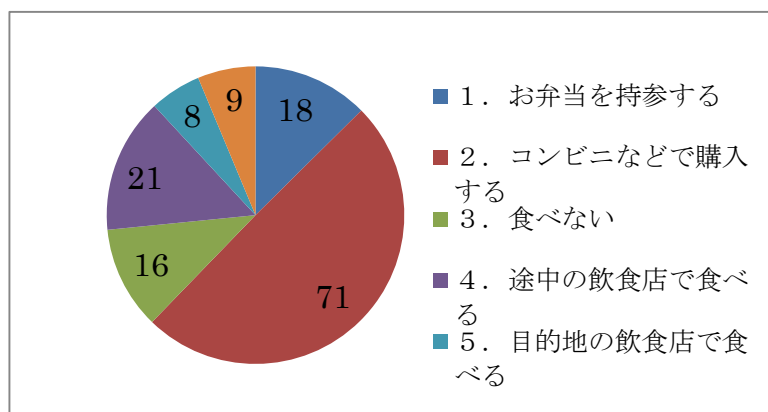
選択肢	回答数	割合
1. 休憩しない・予定していない	16	13%
2. 休憩した・予定している	108	84%
未回答	4	3%
総計	128	100%

2人以上の回答があった施設名または地名		1人から回答のあった施設名または地名
上津屋橋（流れ橋）	34人	アスパシア山城、イオン高の原、 木津、木津三角公園、 嵐山、背割堤（八幡市）、京田辺市、 山吹ふれあいセンター（井手町）、 茶カフェ（和束町）、 トイレのある所、喫茶店、川岸
コンビニ	12人	
舟形公園（京田辺市）	5人	
けいはんなプラザ（精華町）	3人	
四季彩館（八幡市）	3人	
桂大橋（京都市）	2人	
御幸橋（八幡市）	2人	
公園	2人	
石清水八幡宮（八幡市）	2人	
泉大橋	2人	
道の駅	2人	

計 81 件

問5 昼食はどうされますか。（複数回答）

- ・コンビニなどで購入している方が約5割、飲食店で食べる方は約2割であった。
- ・食べない方も約1割であった。



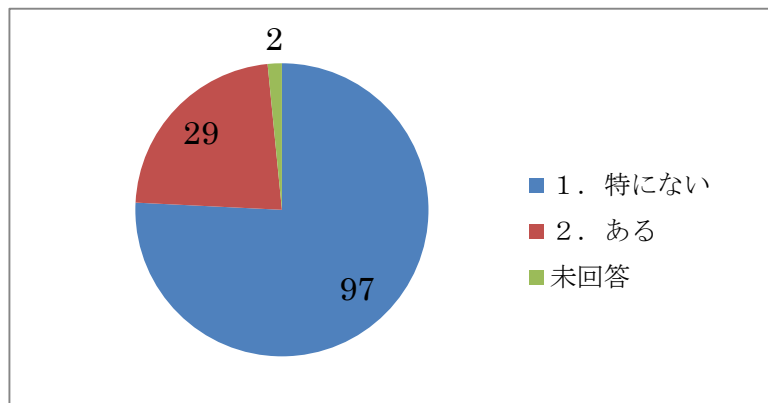
選択肢	回答数	割合
1. お弁当を持参する	18	13%
2. コンビニなどで購入する	71	50%
3. 食べない	16	11%
4. 途中の飲食店で食べる	21	15%
5. 目的地の飲食店で食べる	8	6%
6. その他	9	6%
合計	143	100%

「よく利用する施設」「その他」の記載内容

- ・家で食べる（４人） ・携帯食（２人） ・パン（１人）
- ・けいはんなプラザ（精華町）（１人） ・伏見区（１人）

問６ 普段、サイクリングでよくご利用される施設はありますか。

- ・特定の利用施設がない方が７割以上であった。
- ・コンビニを利用している方が最も多い。



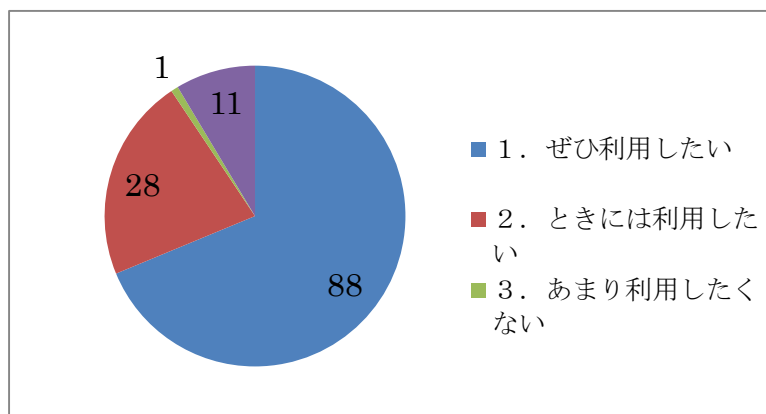
選択肢	回答数	割合
1. 特にない	97	76%
2. ある	29	23%
未回答	2	2%
合計	128	100%

2人以上の回答があった施設名		1人から回答のあった施設名
コンビニ	13人	イオン高の原、アスパ山城、 四季彩館（八幡市）、御幸橋付近のコンビニ、 京田辺市、けいはんなプラザ（精華町）、 淀川、関西医大の休憩所（枚方市） 雨つゆをしのげる場所
トイレ	4人	
スーパー	3人	
道の駅等	2人	
上津屋橋（流れ橋）	2人	
公園	2人	

計 35 件

問 7 木津川市内の自転車道周辺に休憩所があれば利用したいですか。

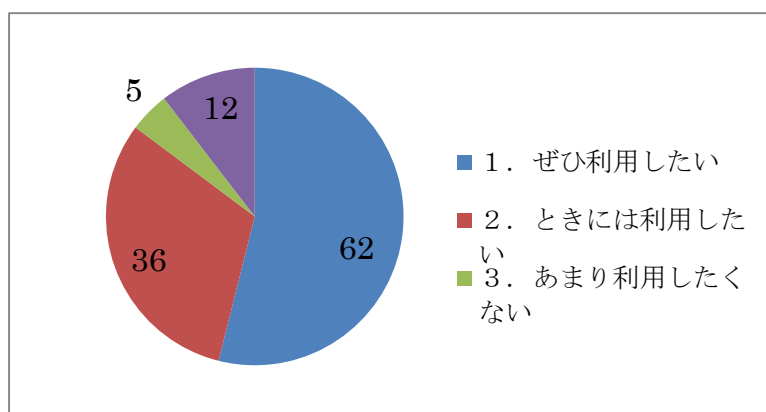
- ぜひ利用したいが約 7 割であり、ときには利用したいを合わせると約 9 割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	88	69%
2. ときには利用したい	28	22%
3. あまり利用したくない	1	1%
4. 施設の内容による	11	9%
5. その他	0	0%
合計	128	100%

問 8 設置した拠点施設をご利用いただけますか。

- ぜひ利用したい・ときには利用したいを合わせると約 8 割を占める。
- 施設の内容によると答えた方が約 1 割。



選択肢	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	61	48%
2. ときには利用したい	36	28%
3. あまり利用したくない	5	4%
4. 施設の内容による	11	9%
5. その他	2	2%
未回答	13	10%
合計	128	100%

問8-1 問8で「3. あまり利用したくない」を選択された方の理由は何ですか。

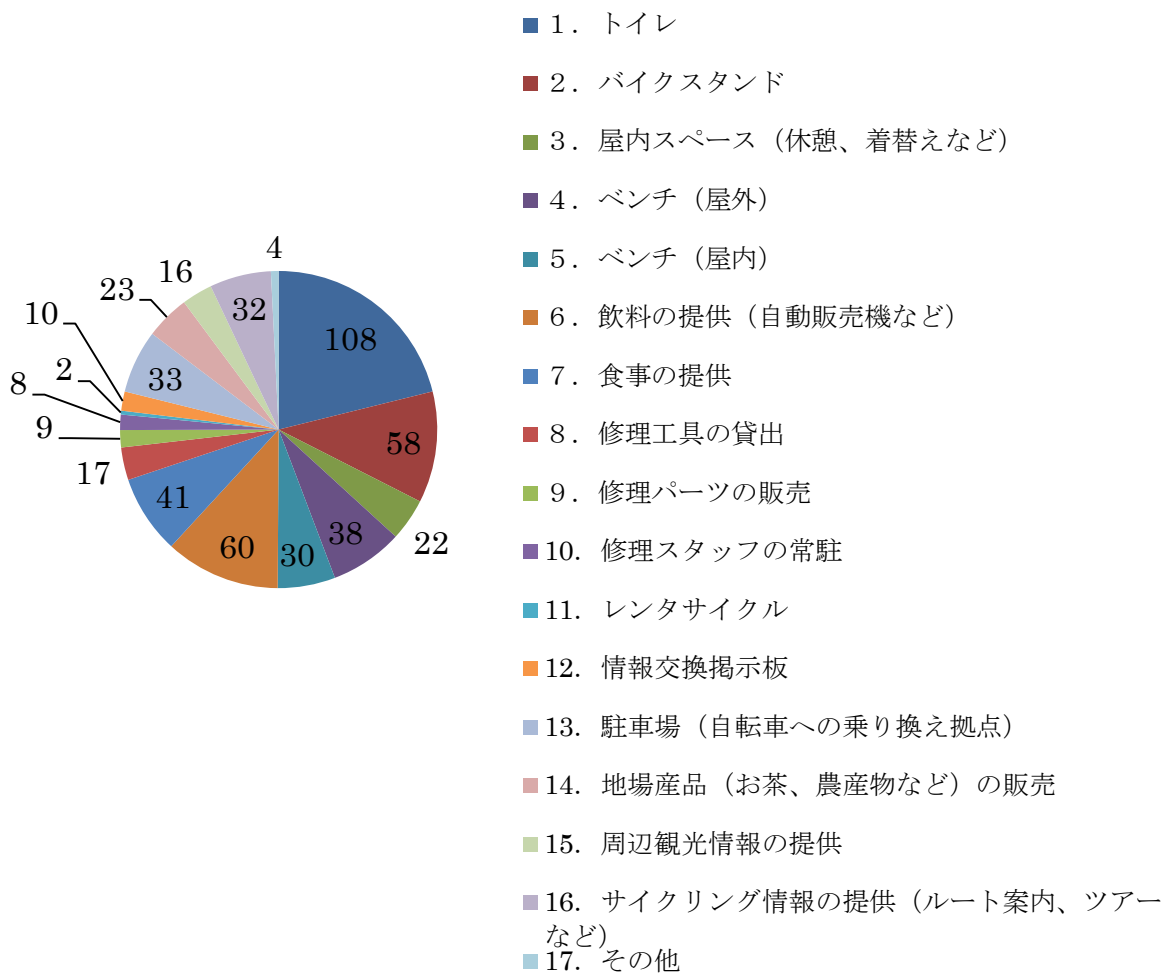
選択肢	回答数	割合
1. 自転車道から離れている	2	40%
2. 泉大橋を渡るのが面倒	0	0%
3. 周辺地域に魅力がない	0	0%
4. 施設の必要性を感じない	0	0%
5. 周辺の道路事情	0	0%
6. その他	2	40%
未回答	1	20%
合計	5	100%

「その他」の記載内容

- ・行かない

問9 拠点施設の機能として、何が特に必要と思いますか。(複数回答)

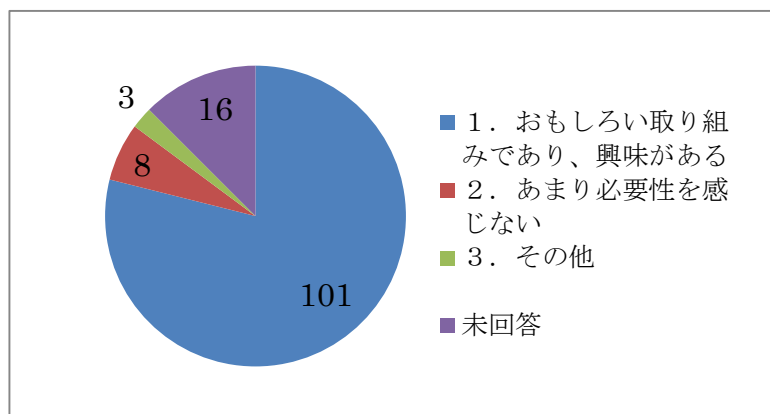
- ・回答者数 128 人に対し、トイレを選択した方が 108 人と約8割を占めた。
- ・トイレ以外で、回答者数の3割以上が選択した機能としては、飲料の提供（60人）・バイクスタンド（58人）・食事の提供（41人）・屋外ベンチ（38人）であった。



選択肢	回答数	割合
1. トイレ	108	21%
2. バイクスタンド	58	11%
3. 屋内スペース（休憩、着替えなど）	22	4%
4. ベンチ（屋外）	38	7%
5. ベンチ（屋内）	30	6%
6. 飲料の提供（自動販売機など）	60	12%
7. 食事の提供	41	8%
8. 修理工具の貸出	17	3%
9. 修理パーツの販売	9	2%
10. 修理スタッフの常駐	8	2%
11. レンタサイクル	2	0%
12. 情報交換掲示板	10	2%
13. 駐車場（自転車への乗り換え拠点）	33	6%
14. 地場産品（お茶、農産物など）の販売	23	5%
15. 周辺観光情報の提供	16	3%
16. サイクリング情報の提供（ルート案内、ツアーなど）	32	6%
17. その他	4	1%
合計	511	100%

問１０ お茶のおもてなしといった地域資源を活用したサイクリング拠点をどう感じるか。

- ・ おもしろい取り組みであり興味がある方が約８割を占める。

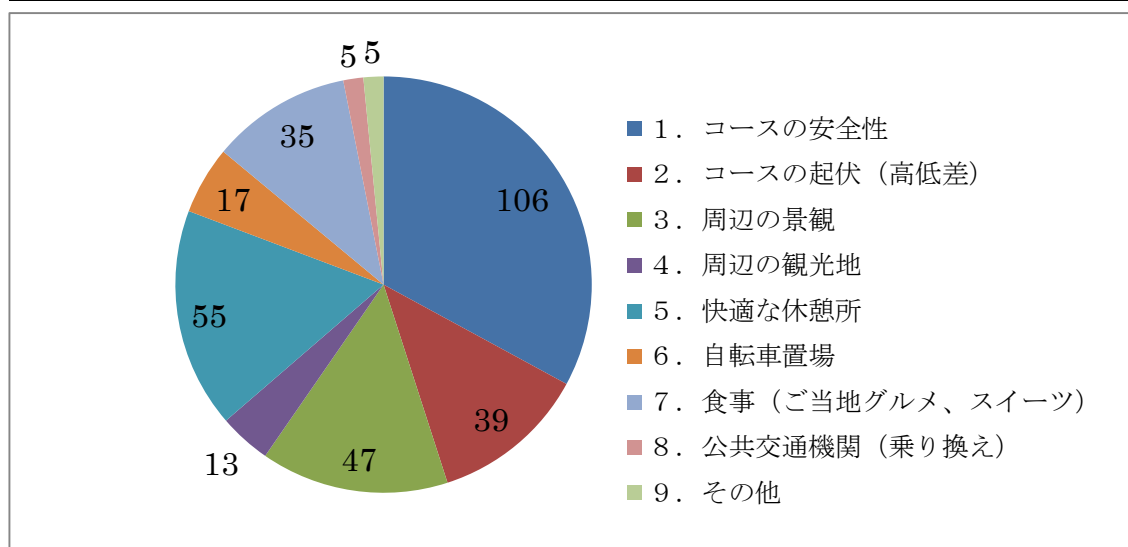


選択肢	回答数	割合
1. おもしろい取り組みであり、興味がある	101	79%
2. あまり必要性を感じない	8	6%
3. その他	3	2%
未回答	16	13%
総計	128	100%

問１１ サイクリングコースを考える上で重視していることは何ですか。

(複数回答)

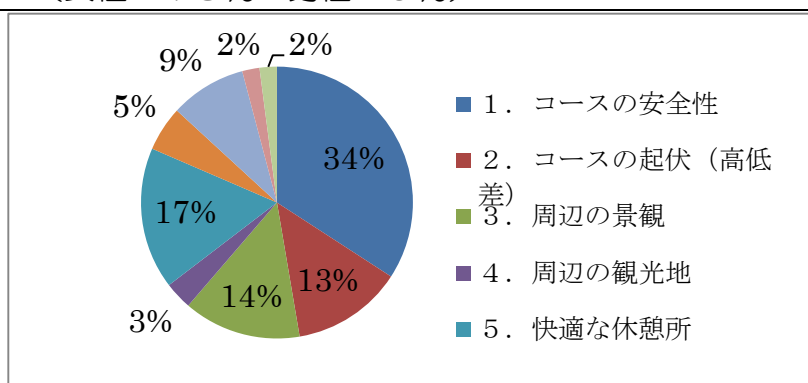
- ・ 回答者数 128 人に対し、コースの安全性を選択した方が 106 人と約８割を占めた。
- ・ コースの安全性以外で、回答者数の約３割が選択した項目は、快適な休憩所（５５人）・周辺の景観（４７人）・コースの起伏（３９人）・食事（３５人）であった。



選択肢	回答数	割合
1. コースの安全性	106	33%
2. コースの起伏(高低差)	39	12%
3. 周辺の景観	47	15%
4. 周辺の観光地	13	4%
5. 快適な休憩所	55	17%
6. 自転車置場	17	5%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	35	11%
8. 公共交通機関(乗り換え)	5	2%
9. その他	5	2%
合計	322	100%

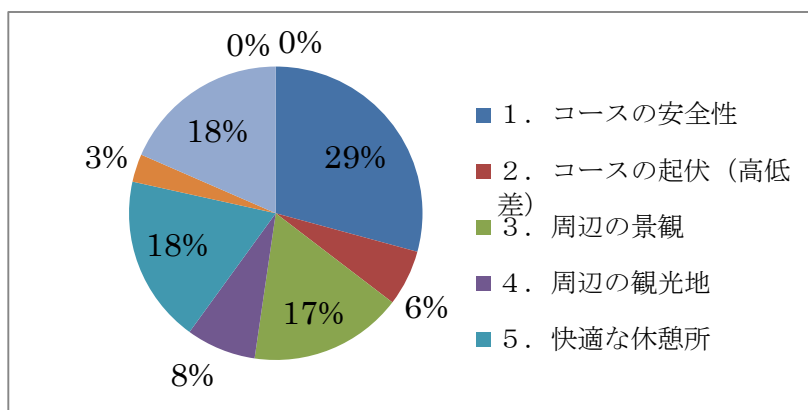
問 1 1 の男女別集計

- ・男女共にコースの安全性が最も多くいずれも約3割を占める。
- ・食事(ご当地グルメ、スイーツ)では女性の関心が高い。
(女性 18%・男性 9%)



男性

選択肢	男性	
	回答数	割合
1. コースの安全性	83	34%
2. コースの起伏(高低差)	32	13%
3. 周辺の景観	34	14%
4. 周辺の観光地	8	3%
5. 快適な休憩所	41	17%
6. 自転車置場	13	5%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	22	9%
8. 公共交通機関(乗り換え)	5	2%
9. その他	5	2%
合計	243	100%

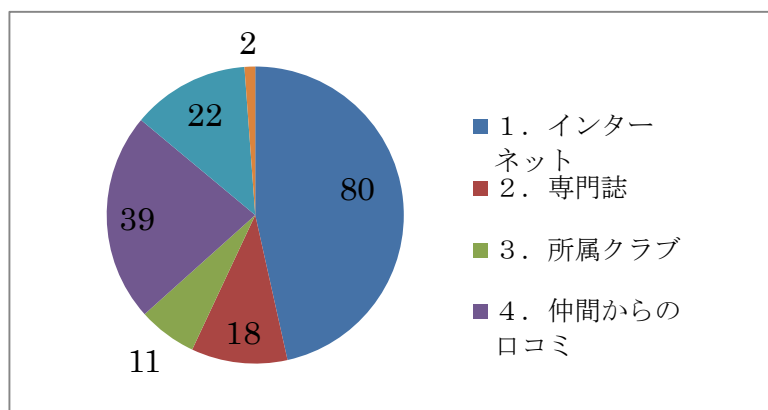


女性

選択肢	女性	
	回答数	割合
1. コースの安全性	19	29%
2. コースの起伏（高低差）	4	6%
3. 周辺の景観	11	17%
4. 周辺の観光地	5	8%
5. 快適な休憩所	12	18%
6. 自転車置場	2	3%
7. 食事（ご当地グルメ、スイーツ）	12	18%
8. 公共交通機関（乗り換え）	0	0%
9. その他	0	0%
合計	65	100%

問１２ 普段、サイクリングに関する情報（イベント、ツアーなど）をどのように取得されますか。（複数回答）

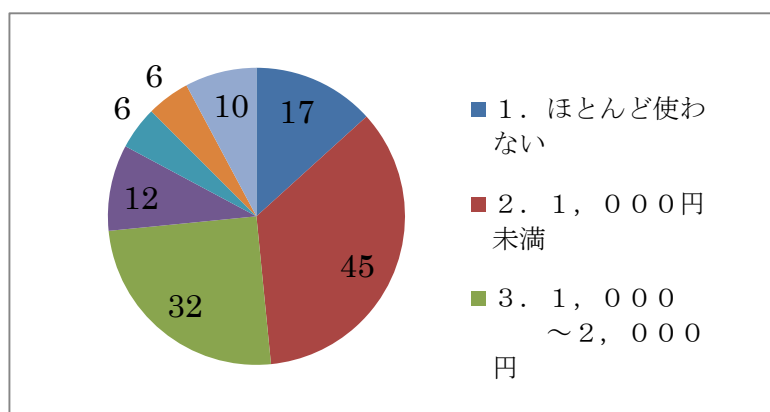
- 回答者数 128 人に対し、インターネットを活用している方が80人と約6割を占めた。
- 回答者数 128 人に対し、仲間からの口コミの方が39人と約3割を占めた。



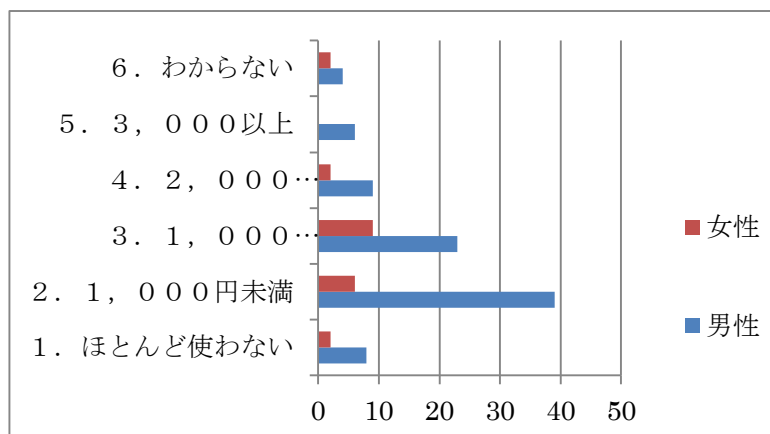
選択肢	回答数	割合
1. インターネット	80	47%
2. 専門誌	18	10%
3. 所属クラブ	11	6%
4. 仲間からの口コミ	39	23%
5. サイクリング専門店	22	13%
6. その他	2	1%
合計	172	100%

問 1 3 サイクリング1回の予算はどの程度ですか。

- ・1,000 円未満が最も多く、2,000 円未満が約7割を占めた。
- ・3,000 円以上使う方は、全体の5%に過ぎなかった。
- ・男女別では、男性は 1,000 円未満が最も多く、女性は 1,000～2,000 円でした。

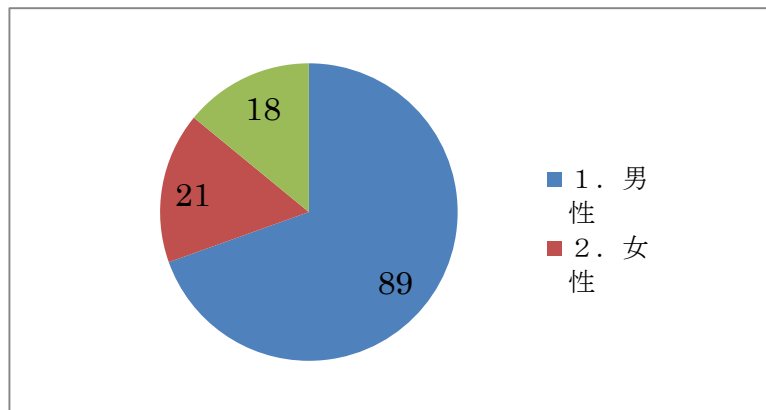


選択肢	回答数	割合
1. ほとんど使わない	17	13%
2. 1,000円未満	45	35%
3. 1,000～2,000円	32	25%
4. 2,000～3,000円	12	9%
5. 3,000円以上	6	5%
6. わからない	6	5%
未回答	10	8%
合計	128	100%



問 1 4 あなたの性別はどちらですか。いずれかに○を付けてください。

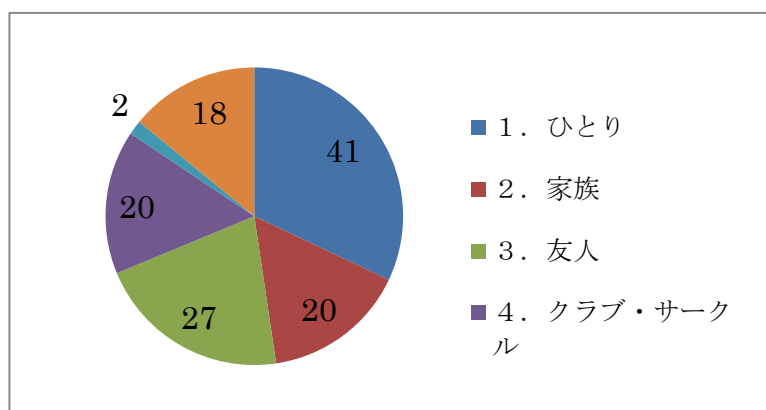
- ・男性が7割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. 男性	89	70%
2. 女性	21	16%
未回答	18	14%
合計	128	100%

問 1 5 普段、どういった方と一緒にサイクリングをされますか。

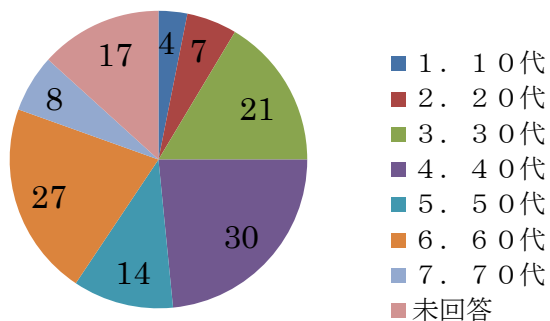
- ・ひとりで行動している方が全体の3割を占める。



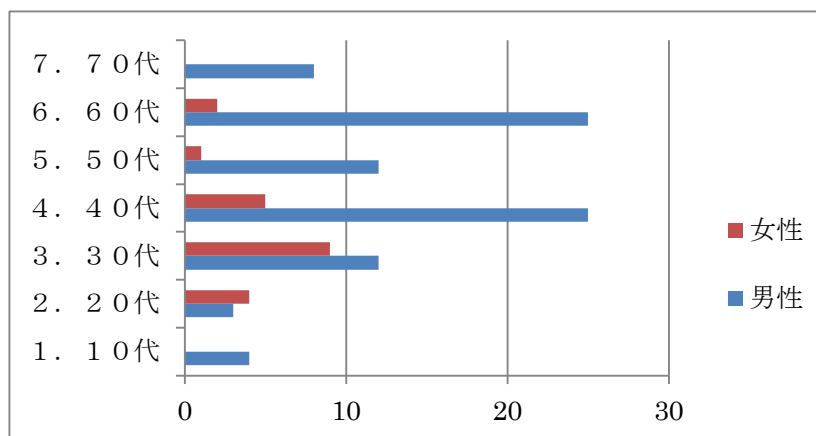
選択肢	回答数	割合
1. ひとり	41	32%
2. 家族	20	16%
3. 友人	27	21%
4. クラブ・サークル	20	16%
5. その他	2	2%
未回答	18	14%
合計	128	100%

問 16 あなたは何歳ですか。いずれかに○を付けてください。

- ・ 30代から60代で幅広い世代の利用がある。
- ・ 男性は40代・60代がそれぞれ約2割を占める。
- ・ 女性は30代が多く次いで40代となっている。

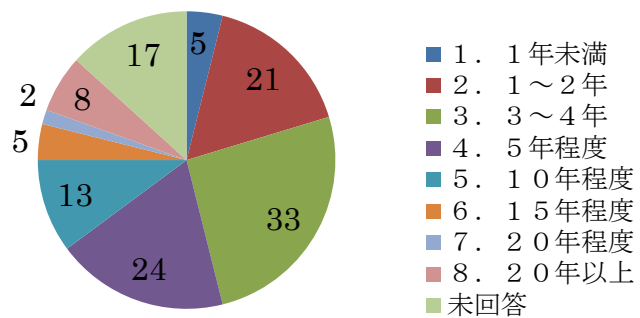


選択肢	回答数	割合
1. 10代	4	3%
2. 20代	7	5%
3. 30代	21	16%
4. 40代	30	23%
5. 50代	14	11%
6. 60代	27	21%
7. 70代	8	6%
未回答	17	13%
合計	128	100%



問 17 あなたのサイクリング歴を教えてください。いずれかに○を付けてください。

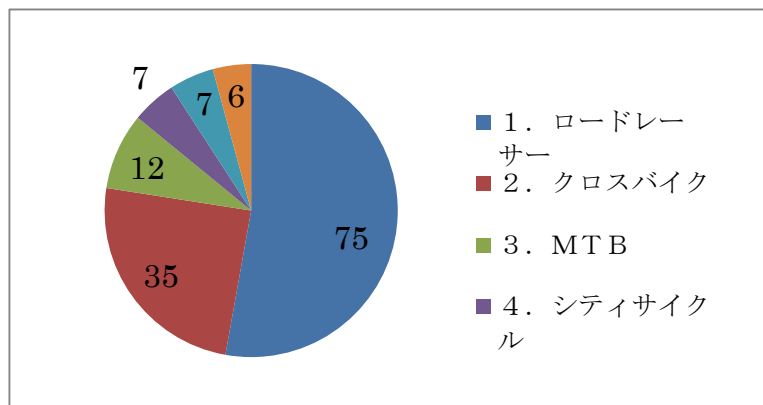
・ 5年以下の方が約7割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. 1年未満	5	4%
2. 1～2年	21	16%
3. 3～4年	33	26%
4. 5年程度	24	19%
5. 10年程度	13	10%
6. 15年程度	5	4%
7. 20年程度	2	2%
8. 20年以上	8	6%
未回答	17	13%
合計	128	100%

問 18 普段、使用されている自転車のタイプはどれですか。(複数回答)

- ・回答者数 128 人に対し、ロードレーサーを使用している方が75人と約6割を占めた。
- ・ロードレーサーとクロスバイクの利用者が全体の約8割を占めた。



選択肢	回答数	割合
1. ロードレーサー	75	53%
2. クロスバイク	35	25%
3. MTB	12	8%
4. シティサイクル	7	5%
5. 折りたたみ自転車	7	5%
6. その他	6	4%
合計	142	100%

「6. その他」の記載内容

- ・ランドナー
- ・ミニベロ
- ・持っていない
- ・トラックレース用改造
- ・電動自転車

交流拠点の設置に関するご意見・ご提案

- ・サイクリングロードに看板を設置ください。
- ・サイクルロードのトイレの完備。
- ・トイレの完備、バイクスタンド。
- ・飲み物を補給できる自動販売機を設置してください。
- ・夏場の日陰や強風をしのげる場所及びトイレがないので是非進めてほしい。
- ・休める所がある事は有意義です。
- ・子どもも楽しめるようにして頂きたいです。
- ・子どもも遊べる公園があればうれしいです。
- ・終点ならば駐車場は是非欲しいです。夏場の水分補給場所が増えるとうれしい。
- ・女性も仲間にいるのでトイレの設置。
- ・地域の特産品を飲食できるような場所もあれば良いのでは。
- ・地元住民の理解、迷惑にならないように。
- ・駐車場（自転車への乗り換えができる施設）。
- ・特別なものはいいませんが、必要なものが常時あるとありがたい。
- ・箱だけでなくイベントにも力を入れてください。

- 木津川は関西で最も走りやすい自転車道です。施設を是非に。
- 隣接の市町村が協力して広域的な整備ができれば良いですね。御苦労さまです。
- おもしろい取組なので頑張ってください。
- がんばってください。
- ぜひ設置をお願いします。
- 頑張ってください。
- 頑張って作ってください。
- 地域交流拠点を是非実現してください。